

いのちの書

アミール・ツアルファティ

- 「いのちの書」とは何か? -

<https://youtu.be/8isZW2m-1oE>

今日は、旧約、新約聖書を通して語られ、黙示録で最高潮を迎えているトピックをお話しします。『いのちの書』についてです。

皆さんの多くが、その書について聞いたことがあるでしょう。そこで問題は、「あなたの名前が、そこに書かれているのか?」「それは実際、どのような書なのか?」「何冊あるのか?」私たちが理解しておくべき事は、神はすべてをご存じであるということ。神は、すべてをご覧になられます。神は、いたる所におられます。神は全能です。ですから、神は、あなたが何を考えているのか、あなたが口にする前からご存じです。イエスが人々とともに座っておられた時に、彼らがなににかについて考えていると、イエスは、すでにそれに答えておられました。彼らが何かを言う前に、イエスは彼らの頭をよぎったことに対して答えられたのです。神は、すべてをご存じです。私たちには理解しがたいことです。なぜなら、私たちはプライバシーを愛していて、私たちのしていることを、“ビッグブラザー”に知られたくありません。私たちの生活に、政府が介入することを嫌います。フェイスブックやグーグルが、私たちの情報のすべてをため込むことを好みません。私たちは死守しようとしませんが、実際のところ、彼らは私たちについてすべてを知っているのだということ、私たちは知りもしません。彼らは、私たちが知る以上に、私たちの習慣を知っているといいます。なぜなら、私たちは自動的に行動をしていて、彼らはそれを記録していますから。

さて、神は何を記録しておられるのでしょうか。興味深いことに、神はすべてを記録しておられます。私は、唯一、御言葉によってしかそれを裏付けることができません。私はこれについて、作り話はしません。たとえば、すべての人のすべての働きは、すべて、天で記録されています。すべての働き、あなたが行ったことのすべて。ところで、働きだけではありません。その後ろにある動機もです。神はご存じです。あなたは一部の人なら、だませるかもしれませんが。全員をだませるかもしれませんが。しかし、神をだますことはできません。神はご存じです。また、神はそれを記録しておられます。黙示録20章は告げています。

また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。(黙示録20章12節)

興味深いと思いませんか?ここには2種類あるのです。ひとつの書は、ある種、「非信者の書」。それから、「いのちの書」があります。すべての人の働きが記録されているだけでなく、すべてのクリスチャンの名前も、「いのちの書」に記されています。全員の名前。それからすべての星の数と名前です。聖書は詩篇147編4節で告げています。

主は星の数を数え、そのすべてに名をつける。(詩篇147編4節)

ワオ。主は、そのすべてを記録しておられます。あなたの頭の毛も…。手ではありません。頭です。これはビックリです。頭の髪の毛のすべて、これはマタイ10章です。

あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。(マタイ10章30節)

あなたの美容師でさえ、あなたの頭の毛の数は知りませんよ。でも神はスペシャリストで、神はすべてをご存じです。あなたの頭の毛の一本一本が数えられています。

あなたのすべての涙。私たちは、たびたび思います。「だれも私の悲しみなんて分からない」「私がこのことで、どれだけ涙を流したのか、だれも知らない」神はご存じですよ。それだけではありません。神は、あなたが流した涙のすべてを正確にご存じです。ところで、神はあなたが何に対して泣いているのかもご存じですよ。バーゲンが終わったから、とか。それから、神があなたに泣いて欲しいと思ったことに対して、あなたが泣かなかったこともご存じです。

神はまた、ひとりひとりの身体的特徴もご存じです。すべてが記録されています。詩篇139編。

あなたの目は胎児の私を見られ、…私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに。

(詩篇139編16節)

「その一日もないうちに」つまり、あなたが受胎した瞬間に、あなたが赤ん坊のように見える前に、あなたが、どんな顔になるのかを、神はすでにご存じでした。彼は言います。

あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに (詩篇139編16節)

神は、すでにご存じでした。語られたすべての言葉。聖書は、ヤコブの手紙で舌について告げています。

死と生は舌に支配される。(箴言18章21節)

語られた言葉のすべてが…。皆さん、話す前によく考えた方がよいですよ？ときには何かを言うより、何も言わない方がよい場合があります。なぜなら、語った言葉のすべてが…。マタイ12章。

わたしはあなたがたに、こう言いましょう。人は、その口にする、あらゆるむだなことばについて、さばきの日には、言い開きをしなければなりません。(マタイ12章36節)

敬虔な言葉のひとつひとつについても、また、主はご存じです。ヘブル6章10節。

神は正しい方であって、あなたがたの行いを忘れず、あなたがたがこれまで聖徒たちに仕え、また今も仕えて神の御名のために示したあの愛をお忘れにならないのです。(ヘブル6章10節)

あなたが神の御国に投資したすべて。私は、あまりにも多くの教会で目にします。私は世界中を訪れていますが、そこで目にしているのは、ときどき献金箱が動いていて、そこに自分が何かを入れているのを、皆に見られるようにしている人。また別のところでは、自分が献金するのを、ほかの人に見られないようにしている人がいます。しかし、神はすべてをご存じで、神の御国のためになされたすべての投資をご存じです。マタイ6章。

自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。(マタイ6章20節)

そして神は、神を畏れる者をすべてご存じです。すごいですね。そこで「いのちの書」に取りかかるために、もう皆さんにすでにお話ししましたが、聖書は、二つの種類があると告げています。すべての人、すべての時代、すべての場所に関する書があり、それから「いのちの書」があります。それからまた、生を受けた全員の名前が自動的に書かれるという意味の、「いのちの書」があります。そこで、私は二つ存在すると結論づ

けたいと思います。聖書の中に多く存在するように、「二重性の原則」です。影であるものがあり、実体となるものがあり、これから起こることのヒントとなるものがある。常にそうです。

聖書の中には、異なる二つの誕生があるのをご存じですか？二つの異なる「いのち」。二つの異なる「死」。二つの異なる「よみがえり」があります。どういう種類の誕生でしょうか。通常の誕生。皆さんの中で、どれくらいの方が人生の、ある時点で生まれていますか？皆さん、全員です。いまここに座っている人は、全員が誕生しています。しかしイエスは、イスラエルのラビに言いました。「もうひとつの誕生について、あなたに告げよう」そして主は、ニコデモに言われました。ヨハネ3章。

イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ…」
(ヨハネ3章3節)

言ってください。

「人は、新しく生まれなければ神の国を見ることはできません。」 (ヨハネ3章3節)

特にここでは…。私が初めてフィリピンを訪れたのは、1998年。私は5歳でした。いや、冗談です。ともかくあれは1998年、記録によれば私は25歳でした。その時、ある人が私に聞いたのです。「あなたはカトリックですか？それともボーンアゲイン（新生している人ですか）？そのときに、私は思っていました。「この質問は、どういう意味なんだろう？」それから気づいたのは、ここでは「ボーンアゲイン（新生している）」というのは、カトリックと区別するための表現でした。「あなたはカトリック？それともボーンアゲイン？（新生している人ですか）」そこで私が気づいたのは、それは問題ですらないということ。問題は、あなたが「カトリックか“ボーンアゲイン”か」ではなく、あなたが「水によって生まれたただけなのか？それとも聖霊によっても生まれているか？」。問うべき事はこれであって、カトリックかユダヤ人か、ムスリムかヒンドゥー教徒か、そういうことは問題ではありません。

皆、水によって生まれています。なぜなら見てください。ニコデモはユダヤ人でしたが、彼は言っています。「ちょっと待ってください。ボーンアゲイン？（新生する？）」

「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎に入って、生まれることができますでしょうか。」イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国にはいることができません。」(ヨハネ3章4節から5節)

イエスが言っておられるのは、水による誕生は、私たちの全員が水によって生まれています。皆さんも、見事な水泳選手だったのですよ。9ヶ月間は。そして破水し、あなたは生まれました。これが水による誕生です。しかし、水による誕生だけでは足りません。神の御国に入るには、水による誕生と霊的な誕生が必要です。だから、「ボーンアゲイン/新生する」と呼ばれるのです。もうひとつの誕生です。それは、あなたが10歳の時にも、15歳の時にも、50歳の時にも、110歳の時にも起こり得ます。しかし、それがなければなりません。

それから聖書は二つの「いのち」について記録しています。「ちょっと待って。“二つのいのち”とは、いったいどういうことですか？」さて、ローマ書8章11節は告げています。

もし、イエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリスト・イエスを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられる御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも生かしてくださるのです。(ローマ8章11節)

言い換えれば、あなたが生きていた今のいのちでは足りないのです。これは、朽ちる体を持つ人間の「いのち」です。しかし、神があなたに望んでおられる本当の『いのち』を生きることを、あなたが望むなら、あなたは新しく生まれる必要があります、そうすれば、イエスを死からよみがえらせた神の御霊が、あなたの中に住まわれる。聖霊が、あなたの中に宿ります。それを、私たちは何と呼びますか？「新しいいのち」。あなたには、「新しいいのち」がなくてはなりません。あなたは、新しく生まれなければなりません。イエスが、そう言われました。そしてあなたは、「新しいいのち」を持っていないければなりません。聖書がそう告げています。

ということで、二つの誕生。それから、二つのいのち。そして聖書は、実際、「二つの死」があると告げています。ふつうの死があります。人は死にます。老衰もあれば病死もあるし、ときには事故で死ぬ場合もあります。それは起こります。聖書は言います。

人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている。（ヘブル9章27節）

さばきは訪れます。死は、そこにあります。それから、コロサイ人への手紙2章は、告げています。

あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。あなたがたは罪によって、また、肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。（コロサイ2章12節から13節）

つまり、あなたは生きていたとしても、この「新しいいのち」を持っていないために、実際には、あなたは死んでいるのです。それから神が、あなたに「新しいいのち」をお与えになり、この「新しいいのち」が、あなたを死からよみがえらせるのです。世は、歩く死人でいっぱいです。

それからまた、「二つのよみがえり」があります。「よみがえり」とは何ですか？「よみがえる」ためには、まず、死ななければなりません。人は、よみがえるためには死ななければなりません。エリヤは、決してよみがえりませんでした。彼は、一度も死んでいませんから。エノクは、決してよみがえりませんでした。彼は、一度も死んでいませんから。イエスは、よみがえりました。彼は、死にましたから。あなたがよみがえるためには、あなたは死ななければなりません。そして聖書は、異なる二つの「よみがえり」があると宣言しています。「第一のよみがえり」で知られる「よみがえり」。それから、千年王国の終わりの「よみがえり」で、「第二のよみがえり」で知られるものです。「第一のよみがえり」は、イエスが死からよみがえった時に始まりました。聖書は言います。

キリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。（第1コリント15章20節）

彼が「初穂」です。歴史上、だれひとりとして、死に、よみがえり、再び死ななかった人は他にいません。ラザロは死んで、よみがえりましたが、また死にました。彼は生きていません。ですから、死んで、よみがえり、そしていまも生きておられるのは、唯一、イエスだけです。そして聖書が告げている、この同じ「最初のよみがえり」の次の段階は、私たちが取り去られる時で、聖書は、このように言います。

キリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らと一っしょに、雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。（第1テサロニケ4章16節から17節）

つまり、携挙の「よみがえり」それから、大患難のあと、大患難時代の聖徒もまた、よみがえります。ですから、キリストと教会のよみがえりが「第一のよみがえり」。そして、千年王国の最後に「全人類のよみがえり」があると神は言われます。

海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々は、おのおの自分の行いに応じてさばかれた。（黙示録20章13節）

あなたは、どちらのよみがえりに属したいですか？第一？それとも、第二？黙示録20章は告げています。

この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、何の力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。

（黙示録20章6節）

わお。すごいですね。ですから私は、2つあると結論づけました。それから、ほぼすべての場所に「信者」と「非信者」があります。すべての人が信者ではありません。すべての人が救われているわけではありません。すべての人が天国に行くわけではありません。もしそうであれば、聖書が間違っていることになります。聖書は「2種類の書がある」と告げています。すべての人の、すべての行いや言葉、すべてが記録された書と、それから「小羊のいのちの書」。ですから2つの書があるのです。黙示録20章12節。

また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。（黙示録20章12節）

すごくないですか？私たちは、神の御前に立つのです。そして、数々の書物が開かれる。

それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。（黙示録20章12節）

数々の書物があって、それから「いのちの書」があります。聖書はダニエル7章で告げています。

私が見ていると、いくつかの御座が備えられ、年を経た方(イエス)が座に着かれた。その衣は雪のように白く、頭の毛は、混じりけのない羊の毛のようであった。御座は火の炎、その車輪は燃える火で、火の流れが、この方の前から流れ出ていた。幾千のものがこの方に仕え、幾千のものがその前に立っていた。さばく方が座に着き、幾つかの文書が開かれた。（ダニエル7章9節から10節）

公開裁判です。神にあっては、すべてが公（おおやけ）、すべてが明らかで、あなたは何も隠すことができません。神は何一つ隠されません。あなたの発言のすべて、あなたの行動のすべて、あなたの思いのすべて、あなたが与えたすべて、すべてが記録されています。神はすべてをご存じで、いつか私たちは、神の前に立つのです。そこには幾千幾万、数え切れないほどの人がいて、そして、いくつかの書物が開かれます。これは、すごいことですよ？私たちは、これについて考えたくありませんが、しかし、裁きはあるのです。そして、裁きを逃れる唯一の道は、主イエス・キリストに信頼を置くだけ。それが唯一の道です。

エジプトで、イスラエルの民が初子の裁きから逃れるための唯一の道は、傷のない子羊の血を家の門柱に塗ることだけでした。そして神は、罪のない子羊の血をご覧になると、その家を過ぎ越されたのです。彼らは裁きの対象から外されたのです。ここにはキリストの図があって、あなたの心の門柱に彼の血がある時…、考えてみてください。彼らは上と下と、それから両サイドに振りかけたのです。まるで十字架のように。すると、神の裁きは触れもしませんでした。私は、皆さんが神の裁きを待ち、恐れさせるために、ここに立っているわけではありません。もし、あなたが救われていて、イエスに従っているのなら、もしあなたが真の信者であるなら、もしあなたが新生しているのなら、もしあなたが聖霊に満たされているなら、もしあなたが主に仕えているなら、もしあなたが全身全霊を尽くして神を愛しているなら、あなたは裁かれません。それはもう済んでいます。

しかしここでは、数々の書物が開かれました。それから、「ここにこの名前があるけれど、彼は良い人です。彼の代わりに私を処分してください」と言うことはできません。それはできません。モーセは、それを試みました。モーセがシナイ山から降りてきた時、彼は金の子牛の恐ろしい光景を見ました。彼はそれを直視することもできず、言いました。「私はあの山で、40日間を過ごした。神が、私に御言葉をくださった。神の臨在がそこにあった。山全体が燃えたのだ。」火が天から降ったことをご存じですか？あの山は、今の今まで…。

ところで、シナイ山がエジプトにあると考えるなら、間違いです。シナイ山はサウジアラビアにあります。聖書はガラテヤ人への手紙で、こう告げています。

アラビアではシナイ山のことで…。(ガラテヤ4章25節)

”Jebel al-Lawz”と呼ばれる場所があって、今日までそこはサウジが塙で囲っていて、閉鎖された軍事地域。だれも入ることが許されていません。なぜか？それは、その範囲が現しているものすべてが、聖書の正しさを証明しているからです。私たちはそこで焦げた山を発見して、そこでヘブルのメノーラーが彫られた石を発見しています。さらに、このスクリーンと同じくらいの大きさの巨大な岩も発見しています。ここから、あの上まで。それがまん中で、完全に裂けているのです。モーセが岩を分けたのを覚えていますか？それを、あちらで発見したのです。彼らは、だれもそこに入ることを許していませんが、インターネットでDr.Kimを調べてみてください。彼は皇族のひとりの腰痛を治療した韓国人の医者で、王国のどこにでも入って良いという許可を得たため、聖書を信じる信者として、彼はそこへ行くことを望み、そしてすべてを記録しました。それが見事で、聖書のすべての聖句が写真で裏付けされています。

そして、モーセが山から下りてきます。彼は、主の所に戻って、次のように言ったと聖書は告げています。「ああ、この人たちは、金の子牛を神にして大きな罪を犯しました。今、彼らの罪を許して、そして私を、あなたの書から消してください。私が全ての責任を負います」(出エジプト記32章31節から32節参照) そんな男気を、神に見せてはいけません。神は言われました。「モーセ。あなたは、あの罪を犯したのか？そうでないなら、わたしは、あなたの名を消さない」

すると主はモーセに仰せられた。「わたしに罪を犯した者はだれであれ、わたしの書物から消し去ろう。」
(出エジプト記32章33節)

ウォ。そこで私たちが見ているのは、まず、罪が死へ導くこと。「死」は、「死」という名のために、いのちの書から、あなたが取り除かれます。あなたが生まれた時に「いのちの書」に記され、「死」で、あなたはそこから除かれます。ですから、あなたが、“生きている者たちの地”を離れると、あなたはもはや、“みんなの”「いのちの書」には存在しません。ですから問題は、あなたは、“もうひとつの”「いのちの書」に記されているか？あなたには、名前を置き換えることもできません。ローマ書9章を書いた正統派ユダヤ教徒、ユダヤ人のパウロが、そこでイエシュア、イエスの信者として、彼の国イスラエル、ユダヤ人の代わりにとりなしています。パウロは、ローマ人たちに言っています。ところで、彼は一度も訪れたことのない教会に宛てて、これを書いています。彼が手紙を書いているのは、彼が一度も訪れたことのない教会で、その教会には多くのユダヤ人がいたのです。そして彼は言いました。

私はキリストにあって真実を言い、偽りを言いません。次のことは、私の良心も、聖霊によってあかししています。(ローマ9章1節)

彼は言います。「私がこれから告げようとしていることは、完全に神の御心です」

私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。もしできることなら、私の同胞、肉による同国人のために、この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたいのです。彼らはイスラエル人です。子とされることも、栄光も、契約も、律法を与えられることも、礼拝も、約束も彼らのものです。父祖たちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。このキリストは万物の上であり、とこしえにほめたたえられる神です。アーメン。(ローマ9章2節から5節)

パウロは言います。「もし、私の死、または私がキリストから離れることで、私の国を救いに導くことが可能であるなら、私は、それを選んでいく」しかし彼は、それができないということを理解していました。私は願います。願う事はできるでしょう。しかし、それは不可能です。あなたは、あなたよりも聖い人を立てて、あなたの代わりに試験も審判も受けさせることはできません。運転免許の実技試験ではありませんから、試験官を騙すことはできません。彼の書、神は、書を持っておられます。だれでも、生まれた者は…というより、生まれた者だけではなく、受胎した者。命について、もしくは命の始まりについて誤解があるので、ものすごく簡単に、シンプルにお伝えします。聖書的には受胎から命が始まります。聖書的にはPro-Life/命(生命尊重派)も、Pro-Choice/選択(中絶権利擁護派)もありません。Pro-Life/命(生命尊重派)の反対は、Pro-Death/死(死尊重派)です。仮に、そこに選択があるなら、聖書は告げています。

あなたは命を選びなさい。(申命記30章19節)

ですから聖書的には、神は受胎の瞬間から「命」と見なしておられます。どうして分かるのか？詩篇139編は告げています。「あなたは、私の内臓を作り、母の胎内に、私を組み立ててくださった。私は、あなたに感謝を捧げる。私は恐ろしい力によって、驚くべきものに造り上げられている」「ミス・ユニバース」みたいですね？それから、彼は言います。

御業がどんなに驚くべきものか、わたしの魂はよく知っている。秘められたところでわたしは造られ、深い地の底で織りなされた。あなたには、わたしの骨も隠されてはいない。胎児であったわたしをあなたの目を見ておられた。(詩篇139編13節から16a節 新共同訳)

神の目には、胎児が見えています。

わたしの日々は、あなたの書にすべて記されている。まだその一日も造られないうちから。

(詩篇139編16b節)

その赤ちゃんが生まれる前から、その子が、一日として、この世で生きる前から、すべての日々が、すでに記されているのです。神が驚くということはありません。

ところで神は、赤ちゃんを殺すことを、ものすごく嫌われます。イスラエルの地のすべての諸国を追い出して、イスラエルの民に、“そこを攻め取れ。だれも残すな”と言われた主な理由は、そのためです。彼らは(カナンの地の住民)、赤ちゃんをいけにえとして、モレクに捧げていたのです。彼らは鍋に赤ちゃんを入れて、火にかけ、そして太鼓をたたきました。泣き叫ぶ赤ちゃんの声を、太鼓の音がかき消すように。そうして彼らは「死」を神聖化する彼らの“神々”を礼拝したのです。「命」ではなく。神は、皆さんが神を愛しているということを証明するために、誰かを殺すことなど、決して望まれません。神は、彼があなたのことをどれだけ愛しているかを証明するために、神の御子を捧げたのです。

「記憶の書」書には異なる名前があることをお伝えしました。出エジプト記17章14節。

主はモーセに仰せられた。『このことを記録として、書き物に書きしるし、ヨシュアに読んで聞かせよ。わたしはアマレクの記憶を天の下から完全に消し去ってしまう。』(出エジプト記17章14節)

マラキ書、イタリア人は「マラチ」と呼びますが、3章16節。

その時、主を恐れる者たちが、互いに語り合った。主は耳を傾けて、これを聞かれた。主を恐れ、主の御名を尊ぶ者たちのために、主の前で、記憶の書がしるされた。（マラキ書3章16節）

それはまた、「いのちの書」とも呼ばれます。ご覧ください。詩篇のほとんどを書いたダビデ自身が、詩篇69編28節で、敵について語りながら言っています。

彼らが、“いのちの書”から消し去られ、正しい者と並べて、書きしるされることがありませんように。

（詩篇69編28節）

つまり、「いのちの書」があって、これはだれでも生きた者の書。それから「正しい者の書」です。「私たちの義（正しい方）」とは誰ですか？イエスです。ですから、この「いのちの書」とは、「小羊のいのちの書」の事です。

さて、毎年ユダヤ人たちは断食をします。ヨム・キプールです。私たちは25時間断食をするのですよ。1、2分でも足りないことを私たちはとても恐れるため、だから、念のために25時間。24時間ではなくて。そして、私たちが互いに願うひとつのことは、「あなたの名前が書に記されますように」。つまり、あなたの名前が記されています。しかし、その年にあなたが犯したすべての罪によって、書から消されているかもしれない。あなたの名前が、再びその書に書かれますように」。まるで、毎年毎年、彼らの名前が書に書き戻されるように願っているのです。彼らは理解しています。通常の「いのちの書」があること。罪が死をもたらすこと。そして、罪のために、あなたの名前がその書から消されることもあり得るということ。

さて、あなたの名前は、今日、どこに書かれていますか？私がこれを皆さんに聞いているのは、皆、それぞれの名前が、どこかに記されていますから。問題は「どこに？」。ロケーション、ロケーション、ロケーション。（その場所、場所、場所）「あなたの名前は、どこにありますか？」「どの書に、あなたの名前は記されていますか？」「あなたの名前が消される可能性はあるのか？」。あなたの名前が自動的に記される書は、ひとつだけです。それは、私たちがすでに話した書で、全員の名前がそこにあります。この世に生まれた者は、全員、その書に記されています。いったん、あなたが死ぬと、その名をそこから取り除くことができるのは、唯一、その書だけです。あなたの名前が消され得るのは、唯一、その書です。なぜなら、いったんあなたがキリストを持たずに死ぬと、あなたの名前は消されます。もう生きていませんから。

皆さん、ひとつお伝えしたことがあります。あなたの名前が記されているべき書は、名前が墨で記されているのではなく、血で記されている書です。それも、あなたの血ではなく、完璧な神の小羊の血。罪を赦すために、多くの人のために流された血、そのために、あなたは永遠のいのちを持つのです。だから、あなたの名前は、その書から決して取り除かれることはありません。ある日、救いを失うなんてことはありません。

「お前の救いを取り上げよう？」いいえ！ただ、あなたが自問するべき問いは、「私は救いを失うかもしれないのか？」ではなく、「私は救われているのか？」。なぜなら、あなたが救われているなら、ある日、それを失うことはあり得ないと私は思っています。「いのちの書」には、誰が記されているのか？いのちの書には、彼が記されているのか？ひとつ、皆さんにお伝えしたいと思います。ここにいる誰のことも攻撃するつもりはありませんが、もし、あなたが特定の宗派に属していて、あなたが宗教熱心な人であるとか、もし、あなたが「再び新生」できると思っているなら、その考えは捨てなさい。この地球上で唯一、「小羊のいのちの書」に名前が記されている人たちは、自分の名前が小羊のいのちの書にすでに記されているということを知っています。ピリピ人への手紙4章1節から3節で、パウロがピリピの教会に書いていることを見てください。彼は4章の初めで、こう言っています。

そういうわけですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。どうか、このように主にあってしっかりと立ってください。私の愛する人たち。（ピリピ4章1節）

まず第一に、彼は言います。「主にあって、しっかりと立ってください」彼が言っているのは、「キリスト教とは、問題の不在ではない。キリスト教とは、キリストの臨在だ」あなたがたには患難が訪れます。あなたがたには嵐が訪れます。「主にあって、しっかりと立ってください」

それから、彼は言います。

ユウオデヤに勧め、ストケに勧めます。あなたがたは、主にあって一致してください。」

（ピリピ4章2節）

一致した人々。分裂ではなく、陰謀を企てて何らかの問題を生み出すのではなく、「彼らに、一致するように勧める」。しっかりと立ち、一致して、さらに、あなた方に強く勧めます。

ほんとうに、真の協力者よ。（ピリピ4章3節）

この意味が分かりますか？「偽の協力者」があります。自身をクリスチャンと名乗り、便乗する人たちがいます。献金し、「ハレルヤ！」と言いますが、彼らはキリストのことも他の信者のことも気にかけず、神の働きにも御国にも関わらず、福音を伝えることすらしません。

真の協力者よ。…彼女たちを助けてやってください。この人たちは、…私の同労者たちとともに、福音を広め…（ピリピ4章3節）

「福音を広める同労者たち」「宣教の仕方が、私には分からない」そうですか？何もたいしたことではありません。ただ、イエスについて伝えればよいのです。伝えてください。「あなたは、イエスを知っていますか？」一度も聞いたことのない人がたくさんいて、驚きますよ。彼らは一度も聞いたことがないんです。彼らは、いまだにイエスが十字架にかかっていると思っているのです。フィリピン人の半分は、彼が、まだ赤ん坊だと思っています。皆、知らないのです。彼が生きていること。そして、彼が救う事を。皆に真理を伝えてください。

…この人たちは、「いのちの書」に名のしるされているクレメンスや、そのほかの私の同労者たちとともに…（ピリピ4章3節）

基本的に彼が言っているのは、「この人たち全員の名前は、すでに、「いのちの書」に記されている」彼らは、すでにそれを知っています。なぜか？それは、彼らが本当のクリスチャンだからです。彼らは新生していました。彼らは聖霊に満たされていました。彼らは、しっかりと立っていました。彼らは一致していました。彼らは御国の同労者でした。彼らは、真の協力者でした。彼らの名前は、いのちの書にありました。彼らは、じっと座って、「ふむ…私の名前はあるのだろうか？」なんてしていません。彼らは知っていました。ヨハネの福音書13章。イエスは最後の晚餐で、弟子たちに言われました。

わたしがあなたがたに何をしたか、わかりますか。あなたがたは、わたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。

（ヨハネ13章12節から14節）

「いのちの書」に記されたいですか？お互いの足を洗ってください。

わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。
(ヨハネ13章15節)

「する」と言ってください。「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、」

まことに、まことに、あなたがたに告げます。しもべはその主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさるものではありません。あなたがたがこれらのことを“知って”いるのなら…

(ヨハネ13章16節から17節)

知識は良いものですよ。しかし祝福は、いつ来るのか？

それを行うときに、あなたがたは、祝福されるのです。(ヨハネ13章17節)

知っているだけでは足りません。行わなければなりません。あなたは、“知識のあるクリスチャン”ですか？それとも、“実行するクリスチャン”ですか？良かった！「いのちの書」に記されているのはだれか？新生し、聖霊に満たされ、主の御心を実行する人。とてもシンプルです。

ところで、彼らのうちの誰ひとりとして、「私は永遠の命を持っているのだろうか？」などと自問していません。聖書は、「彼らは知っている」と告げています。聖書全体で最大の悲劇の瞬間のひとつは、黙示録5章です。黙示録の初めの3章では、ヨハネに今日の教会の図が与えられています。さまざまな種類の教会があります。ラオデキヤ、フィラデルフィア、それらすべて。そして、4章で聖書は告げています。御使いが彼を呼びました。

ここに上れ。この後、必ず起こる事をあなたに示そう。(黙示録4章1節)

「ヨハネ、あなたは今、現在を見ているが、将来を見せてあげよう。ヨハネ、あなたは今、地上での信者たちの人生を見ているが、携挙と、それから天国での信者の人生について、あなたに告げよう。見せてあげよう。しかし、あなたがあちらにいるためには、あなたは上って来なければならない」ハーパーゾ！取り去られ、そうして彼は天国に連れて行かれ、そして彼は立っています。ヨハネは天国に立っていたのです。そして、見えています。それから聖書は告げています。

また、私は、御座にすわっておられる方の右の手に巻き物があるのを見た。それは、内側にも外側にも文字が書きしるされ、七つの封印で封じられていた。(黙示録5章1節)

これは、私たちの名前が全部記された書です。それから、

また私は、ひとりの強い御使いが、大声でふれ広めて、「巻き物を開いて、封印を解くのにふさわしい者はだれか」と言っているのを見た。(黙示録5章2節)

この封印は、神の裁きの封印で、私たちは内側でしっかりと守られています。しかし、誰が？誰がこの封印を解くのか？

しかし、天にも、地にも、地の下にも、だれひとりその巻き物を開くことのできる者はなく、見ることのできる者もいなかった。(黙示録5章3節)

ヨハネは天国で、あらゆる天の生き物、翼を持ったあらゆる御使い、長老、あらゆる生き物を見えています。ここは天国です。そこでは、何も間違いはあり得ません。それが、だれひとりいないのです。

巻き物を開くにも、見るにも、ふさわしい者がだれも見つからなかったので、私は激しく泣いていた。
(黙示録5章4節)

ヨハネは泣いています。「どういうことですか？だれが、これを行うのですか？」もし、天の生き物が、あなたを救えないなら、牧師や祭司、なんであれ地上の生き物は、絶対にあなたを救えません。しかし、イエスは救います。懺悔室で罪の告白をしても救われません。祭司の祝福は、あなたを救えません。聖水を振りかけても救われません。ある特定の言葉を繰り返し唱えても、救われません。天の生き物でさえ、巻物を開けられなかったのなら、だれにもできません。しかし…

すると、長老のひとりが、私に言った。『泣いてはいけない。見なさい。ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利を得たので、その巻き物を開いて、七つの封印を解くことができます。』さらに私は、御座—そこには、四つの生き物がいる。一と、長老たちとの間に…。(黙示録5章5節から6節)

私たちの名前が、あの巻物に記されるために、イエスがしなければならなかったことを見てください。彼は、ユダ族の獅子と呼ばれました。しかし、ヨハネが見たものは何でしたか？

ほふられたと見える小羊が立っているのを見た。これに七つの角と七つの目があった。その目は、全世界に遣わされた神の七つの御霊である。(黙示録5章6節)

メノーラーに七つの燭台がついているのも納得です。それから、

小羊は近づいて、御座にすわる方の右の手から、巻き物を受け取った。(黙示録5章7節)

彼が巻き物を受け取ったとき、四つの生き物と、二十四人の長老は、おのおの、立琴と、香のいっばいはいった金の鉢とを持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒たちの祈りである。彼らは、新しい歌を歌って言った。『あなたは、巻き物を受け取って、その封印を解くのにふさわしい方です。あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い、私たちの神のために、この人々を王国とし、祭司とされました。彼らは地上を治めるのです。』(黙示録5章8節から10節)

わお！このように、もし、あなたが信者なら、あなたの名前が、そこに記されています。それは本当に尊く、それは本当に重要なため、唯一、キリストご自身だけにしか、その巻き物を開くことができないのです。あなたは、あなたの名前が「いのちの書」に書かれているか知っていますか？

最後に、次のことで締めくくりたいと思います。皆さんに、本当に理解して頂きたいことです。第1ヨハネ5章。

神の御子を信じる者は、このあかしを、自分の心の中に持っています。神を信じない者は、神を偽り者とするのです。神が、御子についてあかしされたことを信じないからです。そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そして、このいのちが御子のうちにあるということです。御子を持つ者は、いのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。私が、神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが、永遠のいのちを持っていることを…。
(第1ヨハネ5章11節から13節)

彼は言っています。「あなたがたに分からせるために、私は言っているんだ！」

あなたがたに“よくわからせる”ためです。(第1ヨハネ5章10節から13節)

そして、あなたがたが神の御子の御名を信じ続け、あなたが証人として人生を生き、そして、神の御子信じているのなら、あなたは、自分が永遠のいのちを持っていることが分かります。そこで今日、私は、皆さん全員に思い出していただきたいと思います。この世のいのちは霧のようです。あっという間に終わります。あなたが、今、外に出ると、あってはならないことですが、車にはねられるかもしれません。だれにも分かりません。この世でのいのちは、ものすごく脆い（もろい）ものです。あなたの名前が、普通の「いのちの書」に書かれていたとしても、それは何の意味もありません。あなたの名前が、「小羊のいのちの書」に記されているようにしなければなりません。そこに記されている人とは？本当の信者、新生しており、聖霊に満たされ、御国の同労者、御子のあかしを自分の心の中に持っている者、こういう人です。神は、彼らをものすごく愛されました。唯一、イエスだけが、その巻き物を開くことができ、他のだれにもできません。将来を見たヨハネが、これを、今日の私たちのために書いてくれたのです。そのことに感謝します。では、目を閉じて頭を下げてください。少しの間、今日の、ご自分の人生について考えてみてください。

あなたは、あなたの名前が「小羊のいのちの書」に記されているか知っていますか？
あなたは、あなたが永遠のいのちを持っているかどうか、知っていますか？
あなたが新生した日があるかどうか、知っていますか？
あなたは、あなたの中に神の御霊が内住しているかどうか、知っていますか？

もし、あなたが知らないなら、まさにこのために、あなたは今日、ここにいます。神は、あなたに知って欲しいのです。あなたの名前が「小羊のいのちの書」に記されていないければなりません。あなたに永遠のいのちがあるかどうかを、もしあなたが知りたいのなら。もし、あなたが、主と共に統治したいのなら。

お父様。感謝します。いのちという賜物、永遠のいのちという素晴らしい賜物に。

イエス様が、この世に来て、十字架で死なれたことによって、私たち全員に無償の賜物として与えられました。あなたは、イザヤ書に記しておられます。さまよっていた私たち全員のために、彼が死なれたこと。私たちのひとりひとりが、自分勝手な道を歩んでいました。

お父様。あなたはまた、ダニエル書で言われました。彼が死んだのは、彼の咎のためではない、と。何一つ、彼は、罪を犯しませんでした。しかし彼は、私たちのために死なれました。

お父様、今日、ここにいる中で、今日、あなたに人生を捧げた人も、また、知識を持って生きてきた人も、全員が、永遠のいのちがあること、彼らの名前が「小羊のいのちの書」に記されていることを知って、平安に満たされますように。唯一、主だけが、封印を解くのにふさわしい方です。

このお祈りを、イエスの御名によって捧げます。

すべて、神の民は言います。

アーメン

メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2019.05.28 (Tue)